秋田県文化財調査報告書第337集

# 大松沢Ⅰ遺跡

—秋田・昭和線地方道改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

2002・2

秋田県教育委員会

# 序

豊かな自然に恵まれた秋田県には、我々の先人たちが営々と築き上げてきた歴史があります。文化財もその歴史遺産の一つであり、正しく継承し次代へ伝えることは現代の我々の責務であります。

このたび、地方道（秋田昭和線）改良工事に伴い、周知の遺跡である大松沢Ⅰ遺跡の一部を発掘調査することになりました。

本遺跡は既に平成5年度に本線部分の発掘調査が行われ、今回はその工事に伴い生じた地滑り区域での発掘調査となりました。前回の発掘調査では、縄文時代中期～晩期、平安時代の遺構・遺物を検出しましたが、今回はこれらに関連する遺構の発見はありませんでした。

秋田県内には現在270箇所近くの地滑り地形上の埋蔵文化財包蔵地があり、その多くは未だその内容等不明のものであります。大松沢Ⅰ遺跡もその一つでありましたが、道路改良という開発行為に伴う発掘調査によって、初めて内容が明らかになりました。今後、この種の地滑り地形上の遺跡については開発による破壊から護るのみならず、自然崩壊によって失われることをも考え、適切な保護策が必要と考えられます。

最後に、本調査及び報告書作成に際し、ご協力いただきました秋田県建設交通部はじめ関係各位に対し厚く御礼申し上げます。

平成14年2月

秋田県教育委員会

教育長　小野寺　清

# 例　　言

1　本報告書は、秋田・昭和線地方道改良工事に係る大松沢Ⅰ遺跡の発掘調査報告書である。
2　本報告書に使用した地形図は国土地理院発行25,000分の1「秋田東部」、及び秋田市発行2,500分の1都市計画図「手形山」である。
3　本報告書の執筆は小林　克が行い、千葉史宏の協力を得た。
4　調査に係る全ての資料は秋田県埋蔵文化財センターが保管している。

# 凡　　例

1　本報告書に収録した遺構実測図の方位は、真北（座標北）を示す。
2　本報告書に収録した土色表記は、農林省農林水産技術会議事務局、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』(1976) に拠った。
3　挿図中に使用したスクリーン・トーン、マークについては個々に凡例を示した。

# 目　　次


序
例言 …… ii
凡例 …… ii
目次 …… ii
挿図目次・表目次・図版目次 …… ii
第1章　はじめに
　第1節　発掘調査に至るまで …… 1
　第2節　調査の組織と構成 …… 1
第2章　遺跡の立地と環境
　第1節　遺跡の位置と立地 …… 3
　第2節　歴史的環境 …… 3
第3章　発掘調査の概要
　第1節　遺跡の概観 …… 6
　第2節　調査の方法 …… 6
　第3節　調査経過 …… 7
第4章　調査の記録
　第1節　基本層位 …… 8
　第2節　遺構外出土遺物 …… 9
第5章　まとめ
　第1節　地滑り地形と大松沢Ⅰ遺跡の遺構・遺物 …… 9
　第2節　秋田県内における地滑り地形と埋蔵文化財包蔵地 …… 11
調査抄録


# 挿図目次


第1図　大松沢Ⅰ遺跡発掘調査区 …… 2
第2図　大松沢Ⅰ遺跡の位置と周辺遺跡 …… 4
第3図　基本層位図 …… 9
第4図　大松沢Ⅰ遺跡の地滑り地形と遺構遺物分布 …… 10
第5図　秋田県内地滑り地形上の遺跡分布図 …… 14


# 表 目 次


表1　周辺遺跡一覧 …… 4
表2　調査経過 …… 7
表3　秋田県内地滑り地形上の遺跡（1） … 12
表4　秋田県内地滑り地形上の遺跡（2） … 13


# 図版目次


図版1
　1　調査区全景（東→西）
　2　調査区全景（北→南）
　3　調査区内に入った地割れ（南東→北西）
図版2
　1　地割れ部分断面（南→北）
　2　出土遺物

# 第１章　はじめに

## 第１節　発掘調査に至るまで

大松沢遺跡の位置する秋田市手形地区は、近年の急速な宅地化で市内でも人口増の著しい地区である。この手形地区を南北に縦断する主要地方道秋田昭和線は、秋田市北東部の交通渋滞を緩和するため事業計画され、既に手形山団地以南、国道13号線までの間については供用開始されている。そして、手形山団地以北、添川地ノ内間1,587m（手形工区）については平成元年度から工事が実施され現在なお工事が続けられている。

この工事に先立って昭和61年から63年年にかけて、秋田市教育委員会は遺跡詳細分布調査を実施し、大松沢Ⅰ遺跡、大松沢Ⅱ遺跡、中山台の三遺跡があることを確認した。このうち、中山台遺跡についてはトンネル工法によって通過することとされ、切土で工事される大松沢Ⅰ遺跡、大松沢Ⅱ遺跡について記録保存の本発掘調査が行われることとなった。

大松沢Ⅰ遺跡については本発掘調査に先立ち、平成4年10月から11月にかけて範囲確認調査を実施し、路線内に遺跡の所在が確実になったため、平成5年7月26日から10月15日までの期間に本発掘調査を実施した。発掘調査面積は2,590㎡で、縄文時代と平安時代の遺構、遺物を確認している。

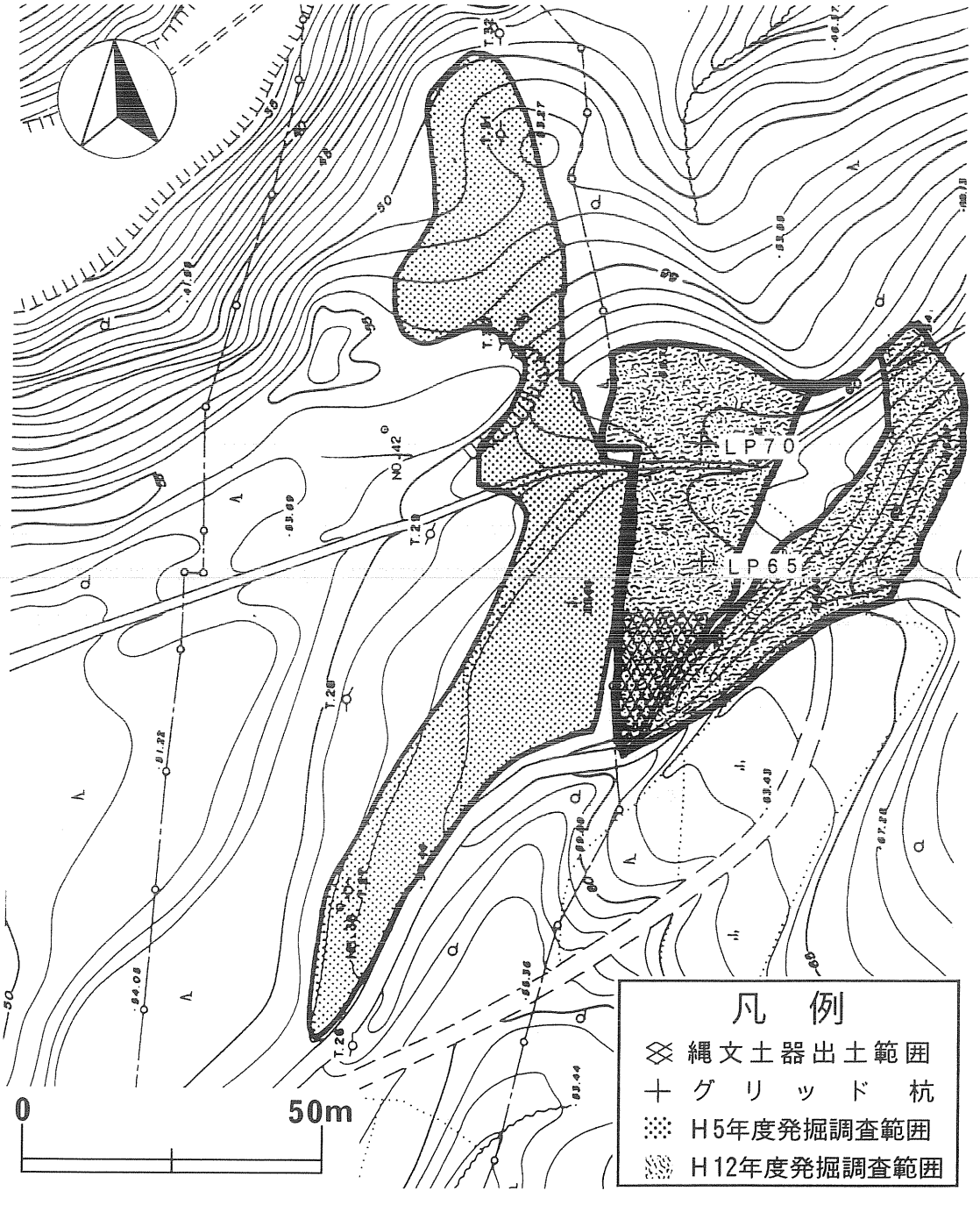
大松沢Ⅰ遺跡については平成5年の発掘調査終了後、工事が開始された。開削工事が進んだ平成11年8月、大松沢Ⅰ遺跡の載っていた東側丘陵の法面に亀裂が走り、道路側に面した東西幅40m、南北長100mの範囲が西側にずれる事態が起こった。秋田県建設交通部道路課では、このままの状態での工事続行は困難と判断し、急遽、亀裂の生じた東側丘陵の削土を決定した。その範囲は大松沢Ⅰ遺跡の範囲内にあったため、平成12年4月、建設交通部道路課では文化財保護法第57条-3に基づく工事の通知を秋田県教育委員会に提出した。秋田県教育委員会ではこれを受けて、平成12年3月、遺跡の範囲確認調査を実施し、記録保存の本発掘調査実施の必要を認めたため、平成12年4月24日付けで保護法58条-3に基づく発掘調査を実施することとしたのである。

## 第２節　調査の組織と構成

| | |
|---|---|
| 遺 跡 名 | 大松沢Ⅰ遺跡　（略号：５ＯＭＺ-Ⅰ） |
| 所 在 地 | 秋田県秋田市手形字大松沢100-30ほか |
| 調査期間 | 平成12年4月24日～6月23日 |
| 調査目的 | 地方道（秋田昭和線）改良事業 |
| 調査対象面積 | 2,300㎡ |
| 調査面積 | 916㎡ |
| 調査主体者 | 秋田県教育委員会 |
| 調査担当者 | 小林　克（秋田県埋蔵文化財センター 調査課長補佐兼調査第二科長） |
| | 千葉史宏（秋田県埋蔵文化財センター 非常勤職員） |

総務担当者　　佐藤　悟（秋田県埋蔵文化財センター 総務課長）
佐々木敬隆（秋田県埋蔵文化財センター 総務課主事）
八文字隆（秋田県埋蔵文化財センター 総務課主事）

調査協力機関　　秋田県建設交通部道路課、秋田市教育委員会文化課
目白台新町町内会、高梨台町内会、中台町内会




第１図　大松沢Ｉ遺跡発掘調査区

# 第２章　遺跡の位置と環境

## 第１節　遺跡の位置と立地

大松沢Ⅰ遺跡は秋田市街地の北東部、手形、新藤田に所在し、位置は北緯39度44分15秒、東経140度8分25秒である。

秋田県中央部には標高1,170mの大平山を頂点とする大平山塊が横たわってる。この太平山塊の北側は鷹巣盆地、米代川を介して青森県境の白神山地があり、東側は八幡平（標高1,577m）を頂点とする奥羽山系へと続いている。また、南側は横手盆地、雄物川を介し鳥海山（標高2,230m）を頂点とする出羽山地がある。この太平山塊から西側の丘陵は雄物川支流の旭川、八田川、宝川、大戸川、猿田川など、大小の河川によって開析され、秋田市街のある秋田平野の東部に突き出している。大松沢Ⅰ遺跡はこのうち旭川と八田川とに挟まれた丘陵の先端、標高50～110mの手形山台地の西側にある。手形山台地の西側は西方向へ開く幾筋かの沢によって開かれており、鋸歯状の縁辺を作り出しているが、大松沢Ⅰ遺跡はこのうち治郎沢と大松沢とに挟まれた標高58mから66mの斜面上にある。

遺跡ののる手形山台地は第四系の礫層ないし含礫砂層から構成され、その厚さは30m以上に達するとされ、内藤博夫氏によれば、雄物川支流の岩見川沿いの椿台面に相当し、関東の下末吉相当面とされている。

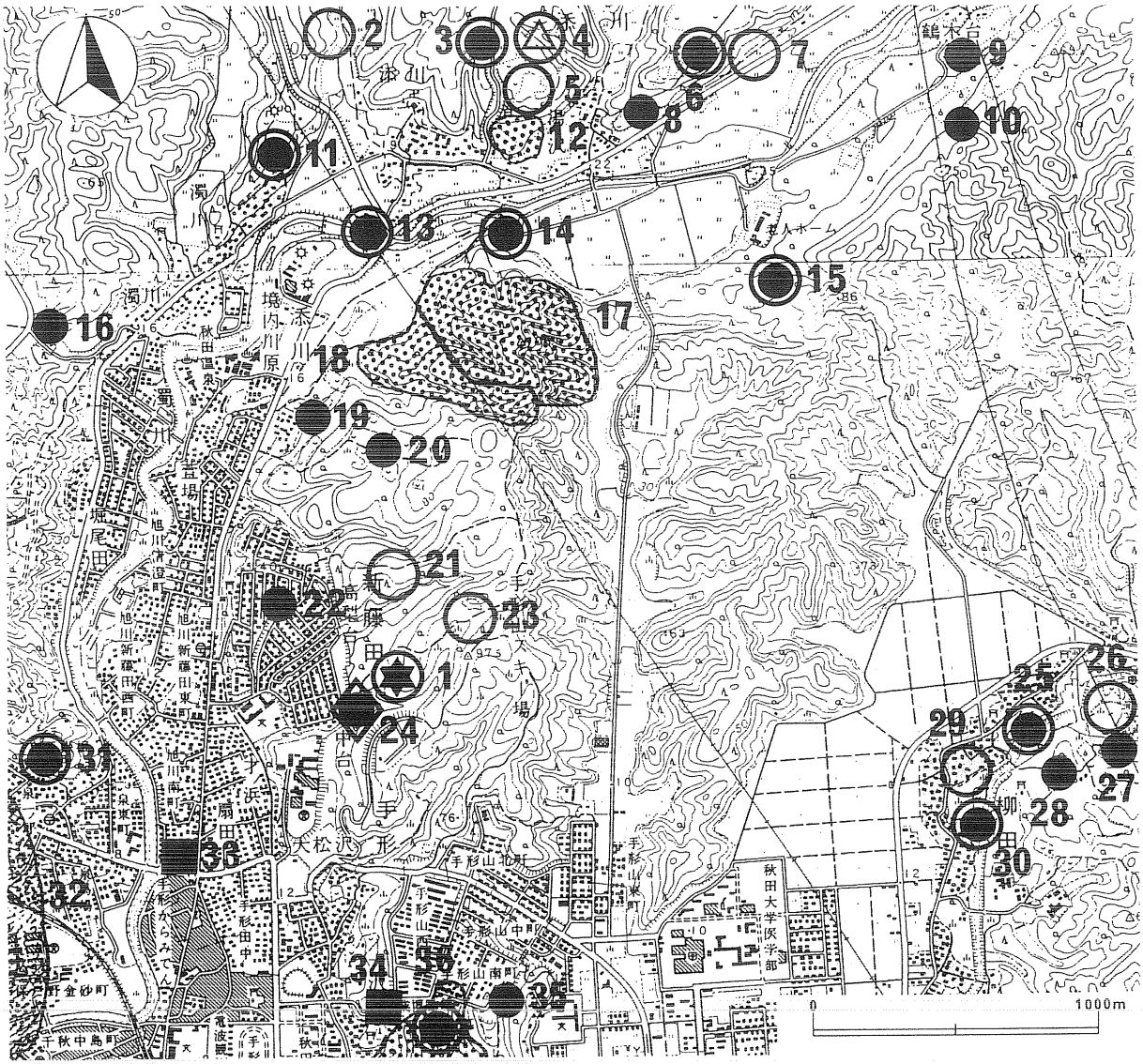
## 第２節　歴史的環境

総面積460㎢の秋田市には平成元年に行われた市内遺跡の詳細分布調査により、360箇所の遺跡があることが確認されている。

秋田市広面字柳沢に所在する柳沢遺跡は、大松沢Ⅰ遺跡の南約1.3kmに位置する縄文時代前期の集落跡である。昭和49年宅地造成に先立って秋田県教育委員会と秋田市教育委員会によって発掘調査が行われ、住居跡8棟や貯蔵穴を発掘した。出土した土器は縄文時代前期後半の円筒下層ａ式から同ｄ式である。住居跡には長さ15mを超えるものがあり、富山県不動羅遺跡とともに日本海沿岸地域における縄文時代長大住居（ロング・ハウス）発見の端緒となるものであった。

秋田市添川地ノ内に所在する地ノ内遺跡は大松沢Ⅰ遺跡の北1.2kmに位置し、平成8年秋田市教育委員会が宅地造成に先立つ発掘調査を実施した。調査の結果、縄文時代前期から中期にかけての住居跡20棟、縄文時代前期を中心とする土坑241基を確認している。

秋田市添川字戸平川の戸平川遺跡は、大松沢Ⅰ遺跡の北1.5kmに位置する。平成7年から8年にわたり、秋田外環状自動車道建設に先立って秋田県教育委員会が発掘調査を実施し、縄文時代晩期の土坑墓91基、掘立柱建物跡5棟を確認している。ほかに墓域近くの沢の部分から竪櫛や木製容器等の漆製品、木製品が多量に出土した。秋田県内では日本海沿岸地域に井川統と呼ばれる泥炭層が発達し、五城目町中山遺跡でも縄文時代晩期の丸木弓や漆製品が出土しているが、戸平川遺跡での多量の漆製




△旧石器時代　◇中　世　古代条里制遺構

●縄文時代　■近　世　中世城館

○古　代

第２図　大松沢Ⅰ遺跡の位置と周辺遺跡

表１　周辺遺跡一覧

| 番号 | 遺跡名 | 種別 | 時代 |
|---|---|---|---|
| 1 | 大松沢Ⅰ | 遺物包含地 | 縄文 |
| 2 | 太田 | 遺物包含地 | 古代 |
| 3 | 古城廻Ⅰ | 遺物包含地 | 古代 |
| 4 | 古城廻Ⅱ | 遺物包含地 | 旧石器・古代 |
| 5 | 古城廻窯跡 | 窯跡 | 古代 |
| 6 | 湯沢台Ⅰ | 遺物包含地 | 縄文・古代 |
| 7 | 蓮田 | 遺物包含地 | 古代 |
| 8 | 湯沢台Ⅱ | 遺物包含地 | 縄文 |
| 9 | 鶴木台Ⅰ | 遺物包含地 | 縄文 |
| 10 | 鶴木台Ⅱ | 遺物包含地 | 縄文 |
| 11 | 蟹子沢 | 集落跡 | 縄文・古代 |
| 12 | 添川館 | 館跡 | 中世 |

| 番号 | 遺跡名 | 種別 | 時代 |
|---|---|---|---|
| 13 | 飛鳥田 | 遺物包含地 | 縄文・古代 |
| 14 | 戸平川 | 墓域・捨場 | 縄文 |
| 15 | 鶴木台Ⅲ | 遺物包含地 | 縄文・古代 |
| 16 | 大堤 | 遺物包含地 | 縄文 |
| 17 | 天館 | 館跡 | 中世 |
| 18 | 地ノ内館 | 館跡 | 中世 |
| 19 | 地ノ内Ⅰ | 遺物包含地 | 縄文 |
| 20 | 地ノ内Ⅱ | 遺物包含地 | 縄文 |
| 21 | 中山台 | 遺物包含地 | 古代 |
| 22 | 高梨台 | 遺物包含地 | 縄文 |
| 23 | 手形山窯跡 | 窯跡 | 古代 |
| 24 | 大松沢Ⅱ | 遺物包含地 | 中世 |

| 番号 | 遺跡名 | 種別 | 時代 |
|---|---|---|---|
| 25 | 佐渡端Ⅰ | 遺物包含地 | 縄文・古代 |
| 26 | 泉Ⅰ | 遺物包含地 | 古代 |
| 27 | 泉Ⅱ | 遺物包含地 | 縄文 |
| 28 | 泉Ⅲ | 遺物包含地 | 縄文 |
| 29 | 佐渡端Ⅱ | 遺物包含地 | 古代 |
| 30 | 佐渡端Ⅲ | 遺物包含地 | 縄文・古代 |
| 31 | 三嶽根 | 遺物包含地 | 縄文・古代 |
| 32 | 一ツ坪条理制遺構 | 条里制遺構 | 古代 |
| 33 | 如斯亭 | 庭園 | 近世 |
| 34 | 平田篤胤墓 | 墓地 | 近世 |
| 35 | 柳沢 | 集落跡 | 縄文 |
| 36 | 蛇野 | 遺物包含地・館跡 | 縄文・古代・中世 |

品、木製品の出土は改めて日本海沿岸地域での縄文晩期文化の内容の濃さを示すこととなった。

秋田市手形字大松沢に所在する手形山窯跡は大松沢Ⅰ遺跡の北東0.4km に所在し、昭和49年、秋田考古学協会により発掘調査され、半地下式の須恵器窯2基が発掘された。出土した須恵器には坏、蓋、甕、鉢があり、8世紀末から9世紀半ばにかけてのもので、秋田城の第Ⅱ期にあたる。同じく古代の須恵器窯としては、秋田市添川古城廻に所在する古城廻窯跡がある。大松沢Ⅰ遺跡の北北東2km に位置し、平成5年、秋田市教育委員会が秋田市史編纂の一環で調査し、平安時代前半の登窯1基を確認している。秋田城への須恵器供給は秋田城の北北東5.5km の末沢窯跡群や、大沢Ⅰ・Ⅱ窯跡、小林窯跡等、上新城地区に集中する窯跡群からが考えられていた。秋田城の東5.5km に所在する手形山窯跡や古城廻窯跡は、これら上新城地区以外にも秋田城と関る窯跡群の存在を示した点で重要な発見となった。

中世の遺跡では、大松沢Ⅰ遺跡周辺に天館、添川館、蛇野館、地ノ内館等の中世城館が存在する。発掘調査された例はないが、『秋田県の中世城館』の記述によれば、大松沢Ⅰ遺跡の北1.2km に位置する天館は天岡相模守が館主と伝えられる城館である。添川館、蛇野館、地ノ内館については館主に関しての伝えもなく、添川館、蛇野館については相当の破壊を受けていることが記されている。

なお、近世の文化財として把握されているのは、国史跡である平田篤胤墓と如斯亭のみである。

参考文献

1．秋田県教育委員会『秋田・昭和線地方道改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ-大松沢Ⅰ遺跡-』1994・3

2．秋田市教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』1989・3

3．内藤博夫「秋田県岩見川流域およびその周辺の段丘群」『第4紀研究』4-1 1965

4．富樫泰時「秋田市柳沢遺跡発見の住居跡」『考古学ジャーナル』No.99 1974

5．秋田市教育委員会『地ノ内遺跡』1997・3

6．秋田県教育委員会『戸平川遺跡-東北横断自動車道秋田線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅩⅣ-』2000・3

7．五城目町教育委員会『中山遺跡発掘調査報告書』1983,1984

8．秋田県教育委員会『手形山窯跡』1975・2

9．秋田市史編纂室『古城廻窯跡』1997・3

10．秋田県教育委員会『秋田県の中世城館』1981・3

# 第３章　発掘調査の概要

## 第１節　遺跡の概観

遺跡は手形山西側の丘陵裾部分がいくつかの谷によって開析されてできた、尾根状地形の北西側斜面にあたる。現在、この尾根状地形の先端部分は開削されて公園に作られ、また、遺跡が面する北側の谷（治郎沢）もその西側を含め埋め立てられて宅地化されている。秋田市教育委員会が行った市内遺跡の分布調査で遺跡とされた部分は、尾根状に張り出した地形がその先端近くで傾斜の角度を変え、やや北東－南西にやや緩やかな地形を作り出した部分である。この周辺の砂礫層の軟弱地盤は従来より地滑りを繰り返し、緩斜面ののびる方向に沿った亀裂を生じさせ、階段状の地形を作り出している。しかし、この地滑りの地形への影響も開削と埋め立てという異なる人為によって一様ではなく、緩やかな谷と尾根とが交錯する複雑な地形となって現れている。

今回、発掘調査の対象となったのはこの路線開削によって生じた亀裂の周囲およそ 2,000㎡の範囲である。平成５年の調査区は路線内に沿って延長 170ｍの長さで設けられたが、今回の調査区は平成５年調査区の中央部東側の区域にあたる。

## 第２節　調査の方法

### １　野外調査

地滑りによる影響を監視するためセンサーを設置するほどの地盤の動きが予想されたため、通常行っている方眼杭による測量は行わず、数本の基準杭を打設してトータル・ステーションによる測量を行うこととした。基準杭の打設に際しては、平成５年の発掘調査との整合をとるため、道路中心 NO.38をＭＡ50の基準として今回の調査区にＬＰ65、ＬＰ70の杭を打設した。なお、杭の呼称については、南北基線に対し４ｍ刻みに北へ向かって繰り上がる算用数字、東西基線には西に向かって同じく４ｍ刻みでＬＡ・ＬＢ・・・・・・・・・・ＬＴ・ＭＡ・ＭＢと正順で変わるアルファベットの組み合わせで示した。

掘削については、最上位層以下の掘削は当初重機によって地滑りによる再堆積土の除去を行い、その後に人力による掘削を行うという手順で開始したが、開始直後の降雨の影響で再度の地滑りが危惧される事態となったため、人力による掘削をあきらめ、地山層近くまで重機による掘削を行い、人力による掘削は遺構の確認に伴う確認面の精査作業のみとした。

写真撮影は 35㎜モノクロ・フィルムと同じく 35㎜リバーサル・フィルムを用い、地山面で確認した地割れ痕跡等の撮影にあっては、確認状態、断面状況、完掘状況の順で撮影した。また、基本層位図等作成にあたっては、トータル・ステーションで測定位置を計測し、20分の１の縮尺で実測した。

2　室内整理

室内での整理作業として基本層位図については野外調査で作成された断面図をスキャナーによって取り込みＣＡＤソフト上でトレースし、レーザー・プロッタを用いて出力した。遺物については洗浄及び注記の後、35㎜のモノクロ・フィルムで撮影した。

## 第３節　調査経過

大松沢Ｉ遺跡の本発掘調査に先立つ範囲確認調査は、平成12年３月８日～17日まで実施された。本発掘調査は平成12年４月24日から開始し、途中３週間の中断をはさんで６月23日まで実施した。以下に発掘調査日誌を記す。

**表２　調査経過**

| | |
|---|---|
| ４月24日 | 発掘調査開始。作業員への説明会を現場事務所で実施。発掘機材の搬入作業。現地工事担当から工期を短縮するため掘調査区域(面)に影響のない範囲で工事を進めたい旨連絡がある。現地の地滑り状況から発掘作業の安全を考えて、工事は調査終了後に行って欲しい旨伝える。 |
| ４月25日 | 作業開始。地滑りによる地割れ内に溜まった土を除去する作業を人力によって行う。 |
| ４月26日 | 24日の工事担当業者から話を受けて建設交通部秋田工事事務所、文化財保護室との現地での協議。改めて調査期間の工事着手は控えて欲しい旨要望する。人力による表土除去作業を継続する。 |
| ４月27日 | 雨が激しく作業は半日で中止。降雨の影響で地割れを計測するセンサーの針が比較的大きくふれるのが観察される。 |
| ４月28日 | 雨のため表土除去作業は中止。調査区内への方眼杭打設のための測量作業。工事担当業者の説明により地滑りは１日あたり3.3㎜ほど進んでいることが判明する。 |
| ５月１日 | 埋蔵文化財センターから作業上の安全が確認できるまで、調査を待機状態にする旨の連絡あり。人力での表土除去作業を休止し重機による表土除去に切り替える。方眼杭打設作業は継続する。 |
| ５月２日 | 調査区内の方眼杭打設作業は継続。秋田工事事務所及び文化財保護室が現地状況を確認のため来跡。重機によって表土除去した表土除去した面に地滑りの影響による地山土の再堆積（逆転層）が認められる。工事側から安全策が講じられるまで調査を休止することが決定される。 |
| ６月１日 | 調査再開。測量のための基準杭打設作業。調査は確認調査で見つかっていた現代の炭焼の跡を再確認することとし、それらの写真撮影を行う。 |
| ６月２日 | 炭焼きの跡の断面の写真撮影等の作業。 |
| ６月５日 | 上段調査区の遺構確認面の精査を行う。この部分でも１基の土坑らしきプランが確認されているが、精査した結果、木根跡を遺構としたものらしいことが判明。 |
| ６月６日 | ほかに炭焼き跡の西側に南北に走る溝状のプランが確認され、精査して断ち割ったが地滑りの地割れの跡と判断。 |
| ６月７日 | 炭焼き跡西側の地割れ痕跡を計測する。 |
| ６月８日 | 上段調査区に確認されていた木根跡の南側の溝状プランを精査する。斜面下方にのびていることが確認できたが、断ち割った結果、これについても地割れ痕跡であることが確認された。 |
| ６月９日 | 炭焼き跡周辺の精査。 |
| ６月12日 | 炭焼き跡の周囲に焼土があることを確認。しかし、いずれも下部構造を持たず、被熱の度合いも弱いことを確認する。窯出しした際の木炭を東側に積み上げた際にできたものと推定。遺跡全景写真の撮影。 |
| ６月13日 | 炭焼き跡西側の地割れ痕跡がさらに拡がっていることを確認する。調査区南側を拡張し石器剥片2点が出土。 |
| ６月14日 | 雨のため現場での作業を中止、屋内での図面整理作業を行う。 |
| ６月15日 | 炭焼き跡周辺の地割れは2段にわたって確認され、さらに東側においても大きな地割れがあることが確認される。南側の拡張作業を続ける。やはり大きな地割れ痕跡が確認され、攪乱された土の中から縄文土器片、鉄釉陶器片がする。 |
| ６月16日 | 埋蔵文化財センターにて連絡会。現場作業を休止して図面整理を行う。 |
| ６月19日 | 炭焼き跡周辺の地割れ状況を写真撮影する。調査区南側の拡張部分の地割れにトレンチを入れ、断面を観察する。 |
| ６月20日 | 地割れ状況の断面図作成。 |
| ６月21日 | 調査区南側拡張部分の地割れの断面写真撮影。その後断面図作成作業。 |
| ６月22日 | 調査区内の清掃作業を行い、その後発掘調査機材を整理する。 |
| ６月23日 | 器材の撤収。調査終了。 |

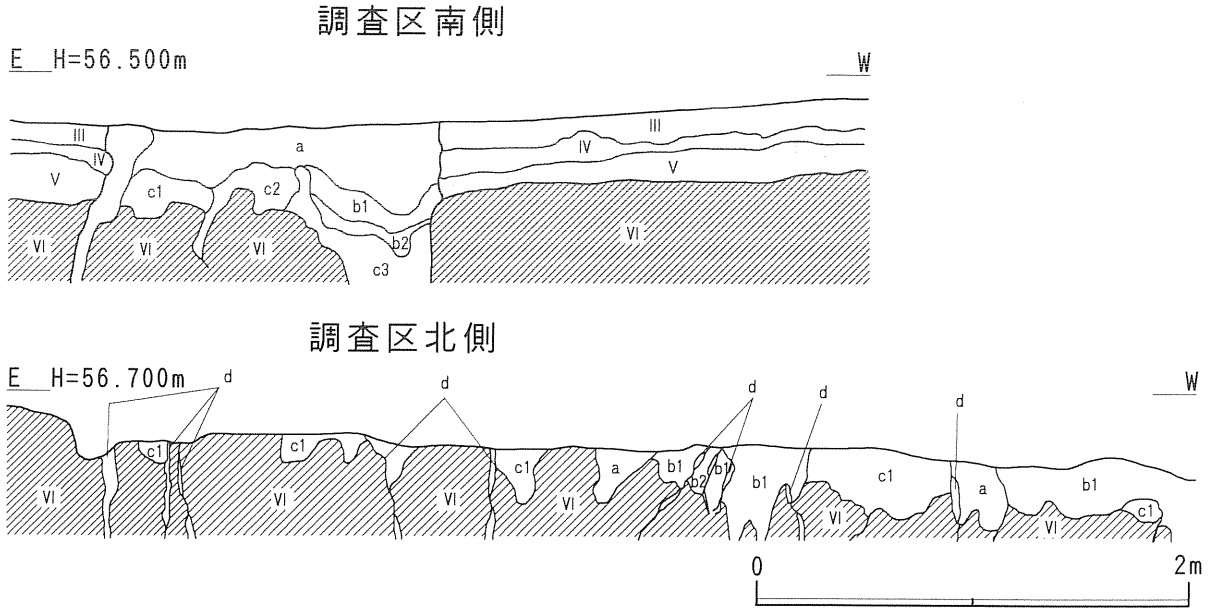
# 第４章　調査の記録

## 第１節　基本層位

遺跡は既に述べたように従来から繰り返し生じた地滑りと、丘陵裾の斜面であることの影響で、至る所で地山黄褐色土とそれよりも上位の黒～暗褐色土の逆転層が認められる。また、今回の調査の直接の原因となった平成11年の地割れによって、下段調査区での平坦面は道路法面に近い部分を除いて厚く崩落土によって覆われている。

第Ⅰ層は今回の調査の原因となった地滑りによる崩落土の再堆積層である。褐色（10YR4／4）～暗褐色（10YR3／4）を呈し、層厚20～40cmをはかる。第Ⅱ層は旧表土層であり、黒褐色（10YR2／2）を呈し、層厚20～30cmである。第Ⅲ層は近代以前の遺物包含層であり、褐色（10YR4／4）を呈しやや赤味を帯びる。全体に微量ながら木炭粒が含まれ、層厚10cmをはかる。第Ⅳ層は縄文時代の遺物包含層である。黒褐色（10YR3／2）を呈し、木炭粒をわずかに含む。層厚20cmをはかる。第Ⅴ層は地山との漸移層であり、褐色（10YR4／4）を呈する。層厚10～20cm。第Ⅵ層は基盤を構成する砂礫層上部の粘質土であり、にぶい黄褐色（10YR5／4）～黄褐色（10YR5／6）を呈する地山層である。

下に調査区南側と北側の２地点の基本層位を図示した。南側部分では重機で除土したⅢ層以下を、北側部分ではⅥ層以下を示している。a～d は地割れ・地滑りによる再堆積層であり、基本的に a～c はⅢ～Ⅴ層に相当する。b1 と b2 は後者が若干明るい色調をとるという差であり、c1～c3 も同様である。また、d は地割れの中に入り込んだⅡ層土である。




第３図　基本層位図

## 第２節　遺構外出土遺物（図版２下段１～11）

遺構外からの出土遺物としては縄文土器片９点、石器剥片１点、磁器片１点の計 11 点が出土している。１は大きな突起を備えた波状口縁深鉢の波頂部破片である。頂部から口縁に沿って隆線が貼り付けられ、口縁下を巡る。波頂部下では隆線の側面に刺突が施されそこからのびた沈線が隆線下に沿って走る。その下にわずかに残った器面にはＬ撚糸紋が縦位に回転施文される。器厚は８㎜、断面形はやや内湾する。後期初頭～前葉と判断する。

２～７は深鉢形土器胴部片である。２は器厚８㎜、Ｌ撚糸紋が右上-左下、左上-右下の斜位に交差して施される。３は器厚６㎜、ＬＲ縄文が横位に回転施文され、その下はナデ調整で無紋となる。４は器厚10㎜、被熱し器面は剥落・摩滅が著しい。５は器厚７㎜、判然としないがＬ撚糸紋が施されているか？６は器厚10㎜、Ｌ撚糸紋が縦位回転施文される。７は器厚６㎜、ＬＲ縄文が横位回転施文される。８は器厚７㎜の鉢形土器の胴部片。摩滅が著しく器面の状況は判然としない。以上は口縁部の特徴、地紋および胎土、後期初頭～前葉であろう。

９は山形の突起をもった浅鉢ないし台付浅鉢の口縁部破片。突起頂部も含め口唇上には沈線が施され、内面にも沈線が１条巡って突起下では大きく三角形に抉り込まれる。外面は比較的丹念なミガキ調整が施され、口縁下15㎜ほどに沈線が１条巡る。器厚は７㎜、断面形は大きく開く。口縁部及び胎土の特徴から晩期終末であろう。

10は頁岩製の剥片、打面は残り表面には２面の剥離面が残されている。剥片右側にはパティナの進んだ礫皮部分が残り、左側縁及び下端には鋭い縁辺が残される。右下端部分は剥片をとった後に折断されている。

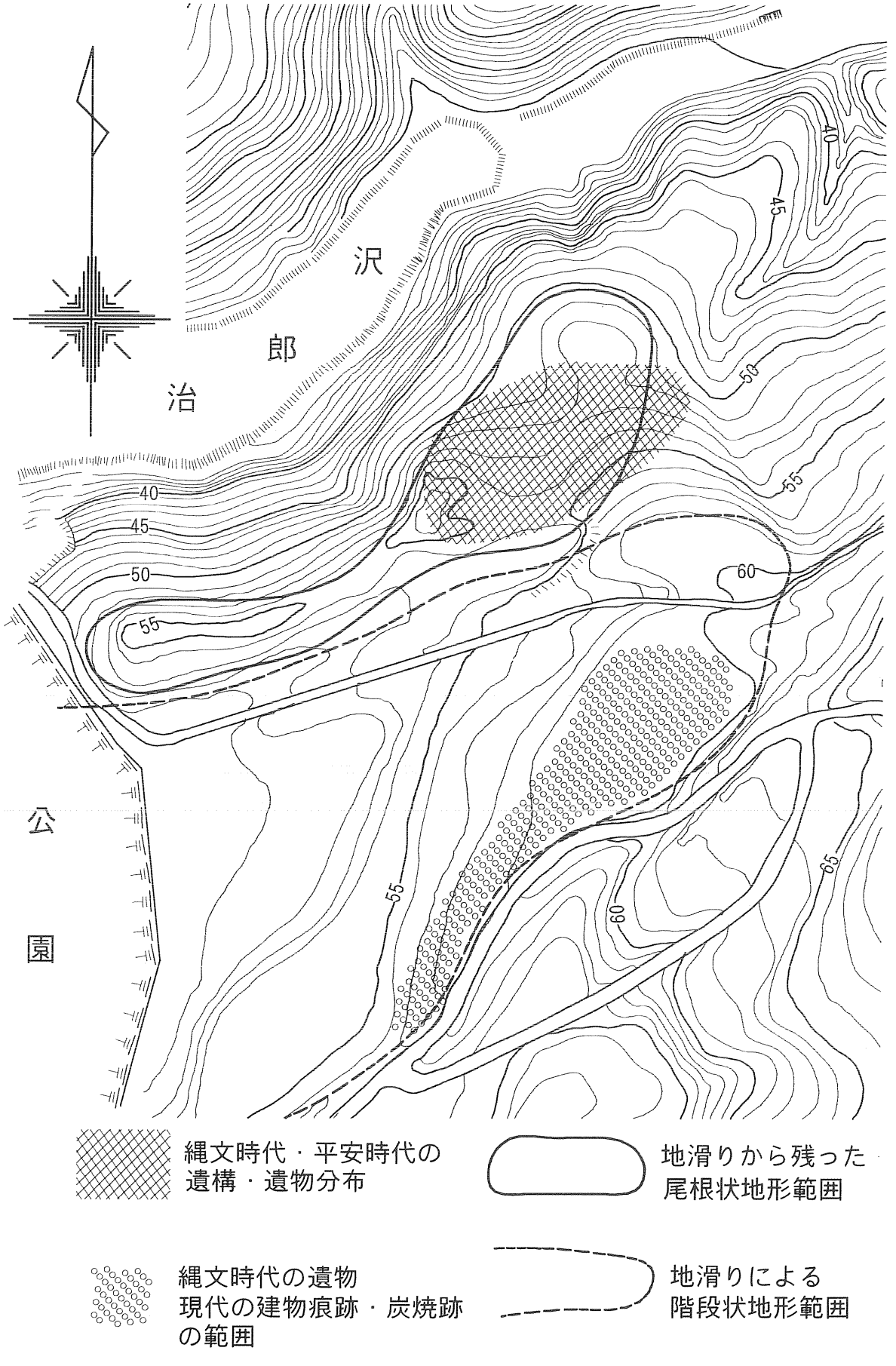
11は器厚 2.5㎜の磁器茶碗片。釉層は 0.5㎜以下と薄い。現代のものである。

# 第５章　まとめ

## 第１節　地滑り地形と大松沢Ｉ遺跡の遺構・遺物

大松沢Ｉ遺跡では治郎沢に面した丘陵の縁辺に地滑りから残った尾根状地形が北東－南西方向にのび、その南側に西方向への地滑りによってできた階段状地形がある。階段状地形は元来、一様な傾斜面であったところへ、降雨等の影響で地盤の軟弱部分が椀状にえぐれて滑落した結果、滑落部分が平坦面として残り、さらに滑落部分の上位面が押さえを失って再び滑落するという過程を繰り返して形成されたものである。本遺跡の場合には、西側の公園に面した標高 51ｍ前後の平坦面、その南東側にある 54ｍ程の平坦面、そして今回の調査区を含む標高 59ｍ程の平坦面が、斜面滑落による平坦面と地形図上からは読みとることができる。

平成５年の調査区は、北側で地滑りから残った尾根状地形の東端部分をかけ、南側は階段状地形のほぼ中央部分をかけている。今回の調査区は、平成５年調査区の南側階段状地形の東側に隣接した最




第4図　大松沢Ⅰ遺跡の地滑り地形と遺構遺物分布

上位の平坦面である。地形図に平成5年および今回の発掘調査で確認された遺構および遺物の分布を重ねてみたのが、第4図である。北側の尾根状地形周辺には平成5年の調査で縄文時代中期から晩期後葉の遺構・遺物、そして9世紀代の建物跡を含む遺構遺物が確認されている。対して、南側の階段状地形部分では今回の調査も含めて縄文時代の遺物は確認されてはいるが、ほかには現代の建物跡、炭焼跡およびそれに伴う陶磁器類が出土したのみである。

このような遺構・遺物の分布の差は地滑り地形の形成過程と合わせて考え、次のようにまとめられる。すなわち、治郎沢に面した尾根状地形部分は遺跡周辺にあっても地滑りの影響のない比較的安定した地形であり、縄文時代および平安時代の遺構がそのままに残されている。しかし、その南側の階段状地形部分がほぼ安定し平坦面としてできあがったのは現代になってからのことである。それ以前の遺構は仮にあったとしても地滑りの地割れによってそれとは確認でないほどに破壊されたか、あるいは地滑り以前の傾斜面が遺構が立地し得ないほどの傾斜をもっていたか、かである。今回の調査では調査区全面をほぼ地山と判断したレベルまで掘削したが随所に地割れ痕跡が認められ、また、確認調査時に縄文時代と推定されたプランも樹根をそれと見なしたものであった。したがって、縄文時代、平安時代の遺構が確認できない理由にはその両方の可能性が考えられる。

## 第2節　秋田県内における地滑り地形と埋蔵文化財包蔵地

秋田県の遺跡地図には現在4,600箇所近くの埋蔵文化財包蔵地が登録されている（註1）。これを国立防災予防センター作成の地滑り地形図（註2）に重ねると、大松沢Ⅰ遺跡と同様の地滑り地形上の埋蔵文化財包蔵地が266箇所確認される。その内訳は鹿角市・大館市・能代市・鹿角郡・北秋田郡・山本郡の県北地区が92箇所、秋田市・男鹿市・本荘市・南秋田郡・河辺郡・由利郡の中央地区が85箇所、大曲市・横手市・湯沢市・仙北郡・平鹿郡・雄勝郡の県南地区が89箇所である。

遺跡地図に示された種別では館跡が多い。個々の事例を確認してはいないが、地滑りが安定した後の構築であれば地滑りによって生じた平坦面を空堀によって区画する、あるいは滑落部分に生じた段差をもって郭を区画するということが行われている可能性がある。しかし、館跡の場合には地形によって判別されることが多く、今回の大松沢Ⅰ遺跡の地形のような地滑りによる階段状地形を多郭連続式の城館跡としている場合も考えられなくはない。また、縄文時代や古代の遺物が表面採集され当該時期の集落等を想定した遺物包含地としている場合にも、住居その他の遺構が立地すると見なされた平坦面が地滑りによってつくられた地形かどうかの判断、そして遺物が残された時期と地滑り地形が形成された時期との先後関係の見極めが埋蔵文化財包蔵地の存否に関わって重要な問題となる。

とりあえず、このような埋蔵文化財包蔵地については詳細な地形図によって、地形が人為によってできたものかあるいは地滑りによるものかの判読が必要となろう。

註1）秋田県遺跡地図県南版（1987）、同中央版（1990）、同県北版（1991）に収載された天然記念物、名勝、庭園、板碑、石塁、方角石を除いた数字は4,575箇所である。

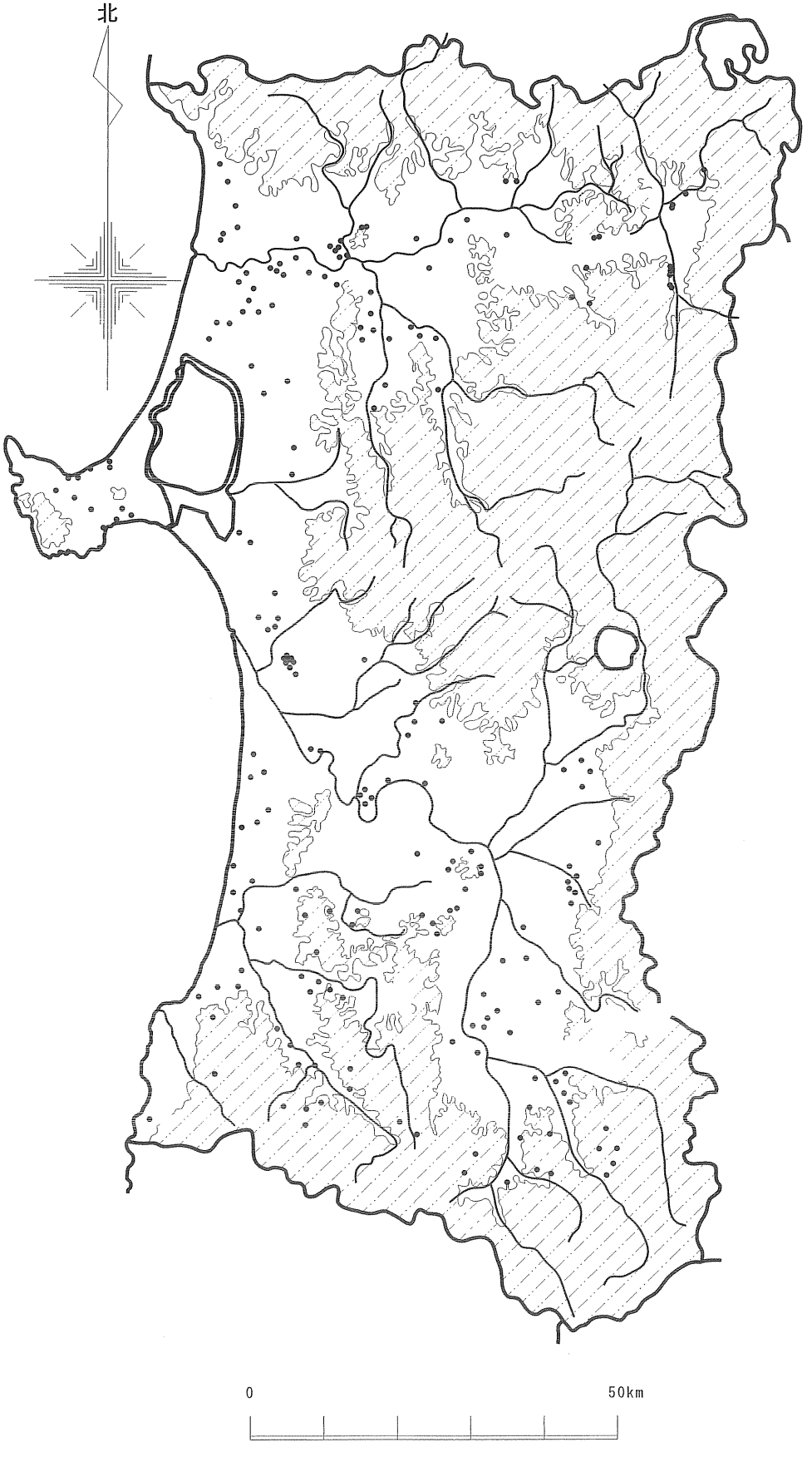
註2）国立防災予防センター　「地滑り地形分布図」『防災科学技術資料』No.96　1985

## 表３　秋田県内地滑り地形上の遺跡（１）

| 地図番号 | 遺跡名 | 所在地 | 種別 | 現況 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1－275 | 宮田沢Ⅰ | 秋田市浜田字宮田沢 | 遺物包含地 | 畑地 | 古代 |
| 1－128 | 小田 | 秋田市仁内字小田 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 1－66 | 羽田台Ⅰ | 秋田市下新城小友字羽田台 | 遺物包含地 | 山林・原野 | 縄文 |
| 1－55 | 小友館 | 秋田市下新城小友字箒田他 | 館跡 | 公園・山林 | 中世 |
| 1－334 | 河童長根 | 秋田市下浜羽川字河童長根 | 遺物包含地 | 畑地・山林 | 縄文 |
| 1－275 | 宮田沢Ⅰ | 秋田市浜田字宮田沢 | 遺物包含地 | 畑地 | 古代 |
| 1－251 | 中山台 | 秋田市新藤田字中山台 | 遺物包含地 | 畑地・山林 | 古代 |
| 1－242 | 雷Ⅱ | 秋田市上新城道川字雷 | 遺物包含地 | 畑地 | 古代 |
| 1－241 | 雷Ⅰ | 秋田市上新城道川字雷 | 遺物包含地 | 山林 | 古代 |
| 1－240 | 牛沢 | 秋田市上新城道川字牛沢 | 遺物包含地 | 山林・水田 | 古代 |
| 1－173 | 地ノ内館 | 秋田市添川字戸平川 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 1－170 | 地ノ内Ⅰ | 秋田市添川字地ノ内 | 遺物包含地 | 畑地・山林 | 縄文 |
| 1－171 | 地ノ内Ⅱ | 秋田市添川字戸平川 | 遺物包含地 | 畑地・山林 | 縄文 |
| 1－192 | 大松沢Ⅰ | 秋田市手形字大松沢 | 遺物包含地 | 山林 | 縄文 |
| 1－221 | 桜田邸内 | 秋田市広面赤沼 | 遺物包含地 | 宅地 | 不明 |
| 1－194 | 大松沢Ⅱ | 秋田市手形字大松沢 | 遺物包含地 | 畑地 | 不明 |
| 1－219 | 蛇野 | 秋田市手形字蛇野 | 遺物包含地・館跡 | 畑地・荒地 | 縄文・古代 |
| 2－101 | 八重堀館 | 能代市字山神社前 | 館跡 | 山林 | 古代・中世 |
| 2－95 | 比久尼館 | 能代市字外堤 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 2－94 | 赤館 | 能代市字外堤 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 2－91 | 芹川館 | 能代市字大台野 | 館跡 | 山林 | 古代・中世 |
| 2－87 | 白岩館 | 能代市天内字白岩前 | 館跡 | 原野 | 中世 |
| 2－109 | 檜山城跡 | 能代市檜山字古城 | 館跡 | 公園・山林 | 中世 |
| 2－110 | 多賀谷居館 | 能代市檜山字霧山下 | 館跡 | 畑地・原野・林地 | 中世 |
| 2－11 | 比八田館 | 能代市比八田字五郎左ェ門沢43外 | 館跡 | 山林・草地 | 中世 |
| 2－107 | 上母体 | 能代市母体字上母体家の下 | 遺物包含地 | 宅地・山林 | 縄文 |
| 2－105 | 三岳館 | 能代市檜山字上館 | 館跡 | 山林・畑地 | 中世 |
| 2－102 | 谷地館 | 能代市字田中谷地 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 2－99 | 上の山 | 能代市字上の山台 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 2－96 | 山神社前 | 能代市字山神社前 | 遺物包含地 | 水田 | 縄文・古代 |
| 3－152 | 大屋館 | 横手市大屋新田字鬼嵐 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 3－71 | 愛宕山 | 横手市睦成字城付 | 遺物包含地 | 山林 | 縄文・中世 |
| 3－70 | 朝草刈城 | 横手市睦成字城付、清水沢前郷字城付 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 4－29 | 高館 | 大館市松木字高舘平 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 4－120 | 沢口 | 大館市曲田字沢口 | 遺物包含地 | 道路・畑地 | 縄文 |
| 4－121 | 蔦ケ長根Ⅱ | 大館市軽井沢字蔦ケ長根 | 集落 | 道路・畑地 | 縄文 |
| 4－122 | 蔦ケ長根Ⅲ | 大館市軽井沢字蔦ケ長根 | 集落 | 道路・畑地 | 縄文 |
| 4－124 | 岩神 | 大館市東字岩神 | 遺物包含地 | 林地 | 縄文 |
| 4－35 | 赤石沢Ⅰ | 大館市川口字上赤石沢 | 遺物包含地 | 畑地・山林 | 縄文 |
| 4－34 | 沼館 | 大館市沼館字細越 | 館跡 | 畑地・山林 | 中世 |
| 4－59 | 水沢館 | 大館市雪沢字水沢谷地 | 館跡 | 水田・畑地・山林 | 中世 |
| 4－36 | 赤石沢Ⅱ | 大館市川口字上赤石沢 | 遺物包含地 | 畑地・山林 | 縄文 |
| 4－52 | 小茂内沢 | 大館市小茂内字上瘤之木台 | 遺物包含地 | 山林・原野 | 縄文 |
| 4－55 | 鬼ケ城 | 大館市茂内字鬼ケ台 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 4－9 | 白沢 | 大館市白沢字古館 | 館跡 | 畑地 | 古代・中世 |
| 4－86 | 根小屋 | 大館市葛原字根小屋 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 4－85 | 漆畑 | 大館市葛原字漆原 | 遺物包含地 | 畑地・林地 | 縄文 |
| 4－56 | 玉林寺跡 | 大館市茂内鬼ケ台 | 寺院跡 | 林地・道路 | 縄文・中世 |
| 4－103 | 杉沢館 | 大館市杉沢字姥沢出口 | 館跡 | 公園・神社 | 中世 |
| 4－10 | 釈迦池 | 大館市商人留字大沢口 | 集落 | 不明 | 縄文・弥生 |
| 5－18 | 土谷 | 本庄市土谷字田之沢 | 製鉄跡 | 山林 | 中世 |
| 5－11 | 阿久根館 | 本庄市赤田字阿久根 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 5－2 | 大野館 | 本庄市松ケ崎字築館 | 館跡 | 学校地 | 中世 |
| 5－21 | 長老沼 | 本庄市石脇字長老沼 | 遺物包含地 | 畑地・宅地 | 縄文 |
| 5－3 | 親川 | 本庄市親川 | 遺物包含地 | 宅地 | 縄文 |
| 5－46 | 滝ノ沢 | 本庄市滝ノ沢 | 遺物包含地 | 山林 | 縄文 |
| 5－6 | 深沢 | 本庄市深沢 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 5－9 | 巣子館 | 本庄市赤田巣子 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 6－34 | 館山 | 男鹿市船川港仁井山字石仏 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 6－1 | 芦ノ倉 | 男鹿市船川港小浜字芦ノ倉 | 遺物包含地 | 原野 | 縄文 |
| 6－120 | 脇本城 | 男鹿市脇本字七沢 | 館跡 | 原野 | 中世 |
| 6－5 | 下台 | 男鹿市船川港小浜字下台 | 唐船番所跡 | 宅地 | 近世 |
| 6－6 | 小倉山館 | 男鹿市船川港小浜字小倉山 | 館跡 | 原野・畑地・山林 | 中世 |
| 6－20 | 大畑台 | 男鹿市船川港南平沢字大畑台 | 集落 | 土取地 | 縄文 |
| 6－24 | 上ノ山館 | 男鹿市船川港金川字上ノ山・金川 | 館跡 | 畑地・山林・原野・墓地 | 中世 |
| 6－35 | 茶臼館 | 男鹿市船川港比詰字餅ケ沢脇本田谷沢字住吉・要沢 | 館跡 | 山林・原野・宅地 | 中世 |
| 6－2 | 祓川Ⅰ | 男鹿市船川港本山門前字祓川 | 寺院跡 | 原野・畑地・宅地 | 中世 |
| 6－140 | 苗代沢 | 男鹿市五里合琴川字苗代沢 | 遺物包含地 | 原野 | 古代 |
| 6－193 | 道柴 | 男鹿市戸賀加茂青砂字道柴 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 6－124 | 岩倉城 | 男鹿市脇本富永字岩倉 | 館跡 | 山林・原野 | 中世 |
| 6－182 | 染川城 | 男鹿市北浦相川字神田 | 遺物包含地 | 山林・原野 | 中世 |
| 6－145 | 是ケ沢 | 男鹿市五里合箱井字是ケ沢 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文・古代 |
| 6－187 | 地蔵台 | 男鹿市男鹿中浜間口字地蔵台 | 遺物包含地 | 原野・畑地 | 縄文・古代 |
| 6－186 | 花取山 | 男鹿市北浦真山字花取山 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 7－10 | 水沢 | 湯沢市松岡字水沢 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 7－23 | 上新田Ⅰ | 湯沢市高松字上新田山 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 7－24 | 上新田Ⅱ | 湯沢市高松字上新田山 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 7－52 | 湯沢城 | 湯沢市字古館山 | 館跡 | 山林・公園 | 中世 |
| 8－22 | 中沢Ⅰ | 大曲市内小友字中沢 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 8－52 | 石神 | 大曲市小友字石神 | 館跡 | 畑地・山林 | 不明 |
| 8－19 | 仁応寺遺跡Ⅰ | 大曲市大曲西根字仁応寺 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 9－347 | 尾去館 | 比内町大葛字尾去、字野続 | 館跡 | 境内地・畑地・山林 | 中世 |
| 9－353 | 石鳥谷館 | 鹿角市八幡平字石鳥谷館、字竹花 | 館跡 | 宅地・山林 | 中世 |
| 9－351 | 後口田Ⅱ | 鹿角市八幡平字後口田37 | 遺物包含地 | 原野 | 縄文 |
| 9－349 | 松館 | 鹿角市八幡平字天神館、字岩淵 | 館跡 | 境内地・山林 | 中世 |
| 9－346 | 尾去Ⅱ | 比内町大葛字尾去30外 | 遺物包含地 | 山林・畑地 | 縄文 |
| 9－123 | 大湯環状列石 | 鹿角市十和田大湯字万座字一本木後口 | 配石 | 畑地・公園 | 縄文 |
| 9－34 | 高清水 | 鹿角市十和田山根字家の上 | 遺物包含地 | 畑地 | 古代 |
| 9－331 | 中の崎Ⅰ | 鹿角市花輪字中の崎 | 集落 | 道路・畑地 | 縄文・古代 |
| 9－124 | 大湯環状列石周辺 | 鹿角市十和田大湯字万座字一本木後口 | 遺物包含地 | 畑地・林地 | 縄文・古代 |
| 9－102 | 鹿倉館 | 鹿角市十和田大湯字古館字下ノ湯 | 館跡 | 畑地・山林 | 中世 |
| 9－352 | 石鳥谷 | 鹿角市八幡平字竹鼻13 | 遺物包含地 | 畑地・山林 | 中世 |
| 10－27 | 八幡館 | 鹿角郡小坂町妙子沢字向 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 11－15 | 碇岱 | 鷹巣町字摩当碇岱 | 遺物包含地 | 水田 | 縄文 |
| 11－9 | 深関太平山 | 鷹巣町坊沢字深関沢 | 遺物包含地 | 山林・神社 | 古代 |
| 11－31 | からむし岱Ⅱ | 鷹巣町字脇神からむし岱 | 遺物包含地 | 牧草地 | 縄文 |
| 12－20 | 中野八幡台館 | 比内町扇田字中野八幡台 | 館跡 | 畑地・山林 | 古代 |
| 12－4 | 千年岱 | 比内町大葛字千年岱 | 遺物包含地 | 山林・畑地 | 縄文 |
| 13－34 | 下前田下山根 | 森吉町阿仁前田字下前田山根 | 遺物包含地 | 山林 | 縄文 |
| 13－41 | 五味堀高屋布 | 森吉町五味堀字下夕大久保岱 | 遺物包含地 | 山林 | 縄文 |
| 13－42 | 五味堀大保岱 | 森吉町五味堀字大久保岱 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 13－47 | 片平館 | 森吉町根森田字片平館 | 遺物包含地 | 山林 | 縄文 |
| 13－45 | 小又小平里A | 森吉町小又字桶坪 | 遺物包含地 | 原野 | 縄文 |
| 13－8 | 御嶽館 | 森吉町米内沢字高御嶽 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 13－57 | 大印B | 森吉町森吉字大印46 | 遺物包含地 | 草地 | 縄文 |
| 13－6 | 阿仁城 | 森吉町本城字寺ノ沢、館の下 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 13－25 | 比内道下山根 | 森吉町蒲田字白坂山根 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 13－58 | 大印A | 森吉町森吉字大印１の内 | 遺物包含地 | 荒地 | 縄文 |
| 13－54 | 向小滝 | 森吉町森吉字向小滝上段613 | 遺物包含地 | 原野 | 縄文 |
| 14－12 | 八幡館 | 阿仁町幸屋字比ノ沢 | 館跡 | グランド・山林 | 中世 |
| 14－9 | 風っ張城 | 阿仁町吉田字寺屋布 | 館跡 | 原野 | 中世 |
| 14－10 | 根子館 | 阿仁町根子字館下段 | 館跡 | 山林 | 縄文・中世 |
| 14－11 | 高田城 | 阿仁町小淵字山ノ内 | 館跡 | 原野 | 中世 |
| 14－4 | 広岨 | 阿仁町銀山字広岨 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 14－6 | 根子 | 阿仁町根子字鬼館野 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 15－14 | 長坂円学 | 鷹巣町長坂円学 | 遺物包含地 | 林地 | 縄文 |
| 16－9 | 杉館 | 合川町木戸石字悪摩沢悪戸 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 17－1 | 不動羅 | 上小阿仁村南沢字不動羅 | 集落 | 畑地・水田 | 縄文 |
| 17－3 | 南沢館 | 上小阿仁村南沢字村の上 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 17－5 | 新館 | 上小阿仁村沖田面字水無 | 館跡 | 山林・畑地 | 中世 |
| 18－12 | 古館城跡 | 琴丘町鹿渡字諏訪長根 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 19－17 | 館平 | 二ッ井町荷上場字町館 | 館跡・遺物包含地 | 山林 | 縄文・中世 |
| 19－15 | 小沼 | 二ッ井町種字古館 | 館跡 | 山林・畑地 | 古代 |
| 19－1 | 御座堂 | 二ッ井町荷上場五輪台 | 遺物包含地 | 草地 | 古代・中世 |

## 表４　秋田県内地滑り地形上の遺跡（２）

| 地図番号 | 遺跡名 | 所在地 | 種別 | 現況 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 19－20 | 堂の前 | 二ツ井町駒形字堂の前 | 館跡・遺物包含地 | 山林 | 古代・中世 |
| 19－19 | 館ノ平 | 二ツ井町飛根字館ノ平 | 館跡・遺物包含地 | 山林 | 古代・中世 |
| 19－20 | 芹沢館 | 合川町三木田芳切沢 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 19－28 | 加代神館 | 二ツ井町種字加代神 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 19－22 | チャクシ | 二ツ井町種字萩の袋 | 館跡 | 山林・畑地 | 中世 |
| 19－16 | 上樋口 | 二ツ井町種字上樋口 | 館跡・遺物包含地 | 山林・畑地 | 縄文 |
| 19－29 | 館の平館 | 二ツ井町飛根字館の平 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 19－3 | 茱萸ノ木 | 二ツ井町楠上場字茱萸の木上の岱 | 遺物包含地 | 工場敷地 | 縄文 |
| 19－34 | 加護山 | 二ツ井町荷上場字加護山 | 製錬所跡 | 林地 | 近世 |
| 19－18 | 鍛冶長根 | 二ツ井町小掛字鍛冶長根 | 館跡・遺物包含地 | 山林 | 古代・中世 |
| 19－5 | 大倉 | 二ツ井町切石字八木山 | 遺物包含地 | スキー場 | 古代 |
| 21－43 | 木戸沢館 | 山本町森岳字木戸沢 | 館跡 | 林地 | 中世 |
| 21－49 | 小町 | 山本町下岩川字小町 | 遺物包含地 | 林地 | 縄文 |
| 24－3 | 黒平館 | 峰浜村目名潟字黒平 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 24－29 | 萩ノ城 | 峰浜村小手萩字萩ノ城 | 遺物包含地 | 宅地・畑地 | 不明 |
| 24－19 | 山城 | 峰浜村塙字山城 | 館跡 | 山林・草地 | 中世 |
| 24－23 | 古館 | 峰浜村石川字右京堂 | 館跡 | 畑地・山林 | 古代・中世 |
| 24－4 | 下大台館 | 峰浜村目名潟字桐ノ木台 | 館関連施設 | 山林 | 中世 |
| 25－30 | 浅見内館 | 五城目町浅見内字高樋 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 25－32 | 山内城 | 五城目町富津内富田字大ナコ | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 26－20 | 山田館 | 昭和町豊川山田字滝の沢、砂子沢 | 館跡 | 山林・畑地 | 中世 |
| 28－11 | 鬼王館 | 飯田川町和田妹川字大宮沢 | 館跡 | 山林 | 縄文・中世 |
| 31－37 | 日暮館 | 南秋田郡井川町井内字大菅生沢 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 33－6 | 飛沢 | 河辺町三内字飛沢 | 経塚 | 山林 | 古代 |
| 33－5 | 長者館 | 河辺町三内字飛沢上段 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 34－10 | 白山 | 雄和町平沢字白山 | 遺物包含地 | 山林・原野 | 縄文 |
| 34－14 | 小平の柵 | 雄和町平尾鳥字小平 | 柵跡 | 林地 | 不明 |
| 35－17 | 阿部堂 | 仁賀保町両前寺字阿部堂 | 遺物包含地 | 道路 | 中世 |
| 35－29 | 天狗平館 | 仁賀保町伊勢居地字天狗平 | 館跡 | 水田 | 中世 |
| 35－21 | 八森屋敷 | 仁賀保町小国字入森 | 遺物包含地 | 山林 | 不明 |
| 35－20 | 七高神社跡 | 仁賀保町院内字堂の庭 | 寺院跡 | 山林 | 不明 |
| 37－15 | 下向坂 | 象潟町小砂川字下向坂 | 遺物包含地 | 山林 | 縄文 |
| 38－36 | 笹山館 | 矢島町川辺字山館 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 38－14 | 八塩沢 | 矢島町坂ノ下字八塩沢 | 遺物包含地 | 水田 | 縄文 |
| 38－17 | 鶴田沼 | 矢島町荒沢字鶴田 | 遺物包含地 | 原野 | 縄文 |
| 38－18 | 針ケ岡 | 矢島町荒沢字中針ケ岡 | 遺物包含地 | 山林 | 縄文 |
| 38－2 | 軽井沢 | 矢島町立石字軽井沢 | 遺物包含地 | 山林・原野 | 縄文 |
| 38－26 | 履沢館 | 矢島町立石字沢ノ内 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 38－35 | 熊ノ子沢館 | 矢島町荒沢字下熊ノ子沢 | 館跡 | 山林・水田 | 中世 |
| 38－39 | 打出地館 | 矢島町荒沢字打出地沢 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 38－7 | 大館 | 矢島町川辺字大館 | 遺物包含地 | 畑地・水田 | 縄文 |
| 38－6 | 安堵地 | 矢島町川辺字安堵地 | 遺物包含地 | 原野 | 縄文 |
| 39－2 | 風平 | 岩城町道川字風平 | 遺物包含地 | 畑地・宅地 | 古代 |
| 39－13 | 古館 | 岩城町富田字古館 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 39－4 | 中野 | 岩城町内道川字中野 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 39－5 | 天鷲城 | 岩城町下蛇田字高城 | 館跡 | 山林・公園 | 中世 |
| 40－7 | 瑞光寺経石 | 由利町町村字唐岸城 | 経塚 | 寺院 | 中世 |
| 40－21 | 根城館 | 由利町川西字根城 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 40－4 | 南福田 | 由利町町村字鳴瀬台 | 遺物包含地 | 学校用地 | 縄文 |
| 40－20 | 根城経塚 | 由利町川西字根城 | 経塚 | 墓地 | 中世 |
| 41－31 | 徳沢館 | 大内町徳沢字飛種 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 41－41 | 蜂長根 | 大内町深沢字横沢 | 遺物包含地 | 山林 | 縄文 |
| 41－7 | 大小屋 | 大内町岩野目沢字要沢 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 41－9 | 川倉館 | 大内町岩野目沢字川倉 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 42－3 | ボツメキ | 東由利町黒淵字ボツメキ | 遺物包含地 | 山林 | 縄文 |
| 42－33 | 中台 | 東由利町杉森字中台 | 遺物包含地 | 畑地・原野 | 不明 |
| 42－1 | 周治谷地Ⅰ | 東由利町黒淵字周治谷地 | 遺物包含地 | 畑地 | 不明 |
| 42－16 | 養田館 | 東由利町老方字養田館 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 43－18 | 大黒館 | 西目町西目字雨池 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 44－16 | 上直根 | 鳥海町上直根字大平ノ下 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 44－15 | 栩山 | 鳥海町中直根字栩山 | 遺物包含地 | 水田 | 縄文 |
| 45－15 | 愛宕下 | 神岡町神宮寺字愛宕下 | 遺物包含地 | 原野 | 縄文 |
| 5－45 | 山内Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ | 本荘市山内 | 遺物包含地 | 採草地 | 縄文 |
| 46－32 | 茶臼館 | 西仙北町刈和野字茶臼嶽 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 46－43 | 鳥声館 | 西仙北町 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 47－20 | 中泊 | 仙北郡角館町西長野字中泊 | 遺物包含地 | 林地・水田 | 縄文 |
| 48－12 | 鎧ケ崎Ⅳ、Ⅴ | 六郷町六郷東根字鎧ケ崎 | 遺物包含地 | 水田 | 古代 |
| 48－13 | 鎧ケ崎Ⅵ | 六郷町六郷東根字鎧ケ崎 | 遺物包含地 | 水田 | 古代 |
| 48－14 | 上田の森 | 六郷町六郷東根字上田の尻 | 遺物包含地 | 水田 | 古代 |
| 48－11 | 鎧ケ崎Ⅲ | 六郷町六郷東根字鎧ケ崎 | 遺物包含地 | 水田 | 古代 |
| 48－9 | 鎧ケ崎城 | 六郷町六郷東根字北鎧ケ崎 | 館跡 | 山林 | 古代 |
| 48－17 | 四天森 | 六郷町六郷東根字南鎧ケ崎 | 遺物包含地 | 採草地 | 縄文 |
| 49－72 | 上の山館 | 中仙町豊岡大神成上の山 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 50－19 | 羽根坂館 | 田沢湖町田沢字羽根坂 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 50－2 | ヨシ谷地 | 田沢湖町生保内国有林ほ林班 | 遺物包含地 | 山林 | 縄文 |
| 50－44 | 長者森館 | 田沢湖町刺巻字明平 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 50－21 | 沼田 | 田沢湖町田沢字沼田 | 遺物包含地 | 山林 | 縄文 |
| 51－75 | 白岩城 | 協和町下淀川字中長根 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 51－28 | 荒川鉱山 | 協和町荒川鉱山 | 遺物包含地 | 砕石土捨場 | 縄文・中世 |
| 51－22 | 上野崎 | 協和町荒川字上野崎 | 遺物包含地 | 畑地 | 弥生 |
| 51－26 | 米ケ森 | 協和町荒川字新田表 | 遺物包含地・集落跡 | 山林 | 旧石器・縄文 |
| 51－27 | 横道城 | 協和町荒川字横道 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 51－86 | 木形台Ⅱ | 協和町小種字木形台 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 51－59 | ニゼ館 | 協和町船岡字琴ケ沢 | 館跡 | 山林 | 不明 |
| 51－83 | 寺の上Ⅰ | 協和町小種字寺の上 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 51－84 | 寺の上Ⅱ | 協和町小種字寺の上 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 51－85 | 木形台Ⅰ | 協和町小種字木形台 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 52－10 | 寺屋敷 | 太田町真木山国有林大曲林区 | 遺物包含地 | 山林 | 不明 |
| 52－9 | 源太寺 | 太田町太田字大森台 | 寺院跡 | 山林 | 不明 |
| 52－2 | バチ沢 | 太田町川口字バチ沢 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 54－7 | 運籠野組石群 | 千畑町黒沢字高野 | 組石遺構 | 畑地 | 縄文 |
| 54－16 | 川端山館 | 千畑町金沢東根字川端山 | 館跡 | 山林 | 縄文・中世 |
| 55－13 | 赤平後野 | 南外村字赤平後野 | 集落 | 山林・畑地 | 縄文 |
| 55－31 | 大黒森 | 南外村大黒森 | 集落 | 原野・畑地 | 縄文 |
| 55－10 | 大畑窯跡 | 南外村字大畑深山 | 窯跡 | 山林・牧草地 | 中世 |
| 56－1 | 戸沢城 | 西木村上檜木内字西下戸沢 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 56－8 | 大森 | 西木村上桧木内字大森 | 遺物包含地 | 原野 | 古代 |
| 56－4 | 中泊 | 西木村上桧木内字中泊 | 遺物包含地 | 山林 | 不明 |
| 56－62 | 丹波台館 | 西木村下桧木内字相内潟 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 57－10 | 前森 | 仙南村金沢字前森 | 館跡 | 山林 | 古代 |
| 58－10 | 鬼越山館 | 増田町狼半内字鬼越山 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 58－13 | 北ケ沢城 | 増田町狼半内字北ケ沢、館ケ沢 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 58－18 | 千把ケ台 | 増田町荻袋字千把ケ台 | 遺物包含地 | 山林 | 縄文 |
| 58－30 | 天下森 | 増田町狼半内字夏虫沢 | 遺物包含地 | グランド | 縄文 |
| 58－34 | 大畑 | 増田町狼半内字上畑 | 遺物包含地 | 畑地・草地 | 縄文 |
| 58－37 | 火石田 | 増田町狼半内字荒次郎沢 | 遺物包含地 | 山林 | 縄文 |
| 58－7 | 館ケ沢館 | 増田町戸波字館ケ沢 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 59－72 | 平の台 | 平鹿町醍醐字平ノ台 | 遺物包含地 | 林地 | 縄文・古代 |
| 59－60 | 馬鞍城 | 平鹿町醍醐字馬鞍 | 館跡 | 林地 | 中世 |
| 59－68 | 明沢 | 平鹿町醍醐字嶽平地嶽沢 | 遺物包含地 | 山林 | 縄文 |
| 59－69 | 鍋ケ沢 | 平鹿町醍醐字大沢鍋ケ沢 | 遺物包含地 | 山林 | 縄文 |
| 59－70 | 山館堂ケ沢 | 平鹿町醍醐字山館堂ケ沢 | 館跡 | 林地 | 中世 |
| 59－71 | 赤瀧八森館 | 平鹿町醍醐字赤瀧八森 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 59－73 | 大保中台 | 平鹿町醍醐字大保中台 | 遺物包含地 | 山林・原野 | 縄文 |
| 61－1 | 蕨台 | 大森町坂部字蕨台 | 遺物包含地 | 溜め池 | 縄文 |
| 61－2 | 白山前 | 大森町八沢木字白山前 | 遺物包含地 | 水田 | 縄文 |
| 61－29 | 名ン小館 | 大森町八沢木字大館 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 61－51 | 桧山館 | 雄勝町秋ノ宮字九十九沢 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 63－19 | 大松川館 | 山内村大松川字館越 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 63－18 | 大城 | 山内村大松川字大城 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 63－23 | 保章館 | 山内村平野沢字保章 | 館跡 | 水田 | 中世 |
| 63－40 | 橋野沢 | 山内村筏字橋野沢 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 65－18 | 小松原 | 稲川町宮田字峠脇 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 65－27 | 八幡館 | 稲川町川連字古館 | 館跡 | 山林・境内地 | 中世 |
| 65－42 | 永徳碑 | 稲川町三梨字御嶽堂 | 板碑 | 墓地 | 中世 |
| 65－17 | 峠脇 | 稲川町宮田字峠脇 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 65－31 | 三梨城 | 稲川町三梨字下宿 | 館跡 | 山林・畑地・境内地 | 中世 |
| 65－28 | 川連城 | 稲川町大館字古館 | 館跡 | 宅地・境内地 | 中世 |
| 66－52 | 影平館 | 雄勝町秋ノ宮字影平 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 66－43 | 五郎城 | 雄勝町院内銀山町五郎城 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 66－47 | 男鹿崎館 | 雄勝町秋ノ宮字男鹿崎 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 66－48 | 八口内城 | 雄勝郡秋ノ宮字時上森 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 66－27 | 九十九沢 | 雄勝町秋ノ宮字九十九沢 | 遺物包含地 | 畑地 | 不明 |
| 67－111 | 七高山修験遺跡 | 羽後町新町字若見沢 | 修験祭祀遺跡 | 山林 | 中世 |
| 68－8 | 田子内城 | 東成瀬村田子内字厳渓山 | 館跡 | 山林・公園 | 中世 |
| 68－6 | 不動館 | 東成瀬村田子内字銀平 | 館跡 | 山林 | 中世 |
| 68－18 | ウムシノ | 東成瀬村椿川字ウムシノ | 遺物包含地 | 水田・畑地 | 縄文 |
| 69－6 | 喜膳 | 皆瀬村川向字喜膳 | 遺物包含地 | 畑地 | 縄文 |
| 69－16 | 八幡館 | 皆瀬村畑等字八幡館 | 館跡 | 水田・畑地山林 | 中世 |
| 69－7 | 桜坂 | 皆瀬村川向字桜坂 | 遺物包含地 | 畑地・水田・牧草地 | 縄文 |
| 69－9 | 皿小屋 | 皆瀬村川向字皿小屋 | 遺物包含地 | 墓地・畑地 | 縄文 |
| 69－8 | 貝沼 | 皆瀬村川向字貝沼 | 遺物包含地 | 境内地 | 縄文 |




第5図　秋田県内地滑り地形上の遺跡分布図

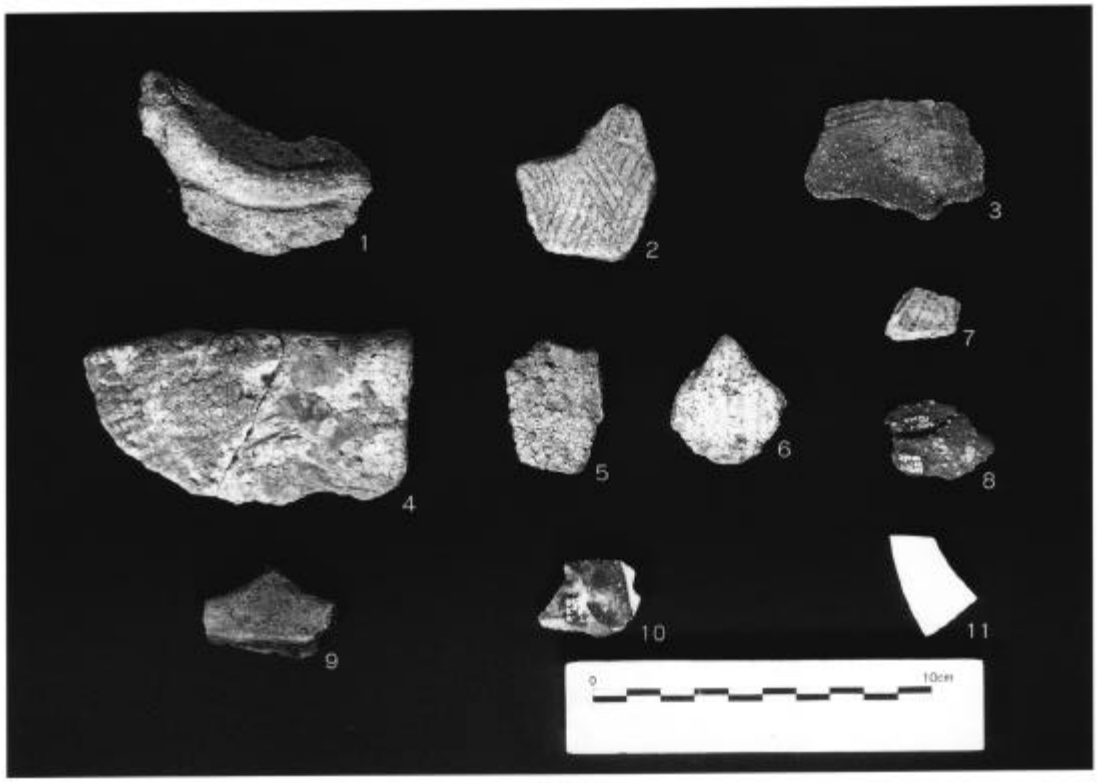
1．調査区全景（東→西）

2．調査区全景（北→南）

3．調査区内に入った地割れ
（南東→北西）

図版2

1．地割れ部分断面（南→北）




2．出土遺物

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふりがな | おお まつ ざわ |
| 書　　名 | 大 松 沢 Ⅰ 遺 跡 |
| 副 書 名 | 秋田・昭和線地方道改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻　　次 | |
| シリーズ名 | 秋田県文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第337集 |
| 編 著 者 名 | 小林　克・千葉史宏 |
| 編 集 機 関 | 秋田県埋蔵文化財センター |
| 所 在 地 | 〒014-0802　秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地　電話 0187-69－3331 |
| 発行年月日 | 西暦2002年２月 |

| ふりがな | ふりがな | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調 査 原 因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 所収遺跡名 | 所 在 地 | 市町村 | 遺跡番号 | | | | 単位㎡ | |
| おおまつざわ<br>大松沢Ⅰ遺跡 | あきたしてがたあざ<br>秋田市手形字<br>おおまつざわ<br>大松沢100-30 | | | 39°<br>44'<br>15" | 140°<br>8'<br>25" | 20000424<br>～<br>20000623 | 916 | 地方道道路改築事業に係る事前発掘調査 |

| 所収遺跡名 | 種 別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特 記 事 項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大松沢Ⅰ遺跡 | 散 布 地 | 縄 文 時 代 | な し | 縄文時代<br>土器・石器 | ・地滑り地形上の遺跡 |

## あ と が き

調査は安全上の配慮から、地滑りを観測・監視するサイレン付きのセンサーに挟まれたなかで行われ、あらたな地割れが生じて3週間程の中断を余儀なくされました。平成5年の調査成果を考慮して行われた2回目の調査でしたが、結果は地滑りの影響を免れた現代のものをのぞき、縄文時代、古代の遺構とも確認できませんでした。

考古学は1片の土器があれば、あるいは現在をさかのぼる人の何らかの活動痕跡があれば、学術的な対象となり得る遺跡の存在を認めます。しかし、行政が保護すべき埋蔵文化財の範囲を基準化することが求められている昨今、「過去の人の活動痕跡」の全てを埋蔵文化財として保護の対象にすることは考え方としても正しい姿勢とは言えません。地域の持つ歴史性や従前に蓄積されたデータから、その地域にとって何が埋蔵文化財として取り上げられるべきかを基準化し、その具体的な保護策を場合分けして最善策を選択し、結果、実施される発掘調査は社会的にも十分に納得可能な措置でなければならないと痛切に感じます。

また、今回の調査は地滑り地形上での発掘調査でした。地滑りにはいろいろなパターンがあるようですが、大松沢Ⅰ遺跡では過去の地滑りによって数段の平坦面が形成されていました。こうした平坦面はいかにも集落が立地するような地形に見られるのですが、現在ですら、耕地としての利用があるぐらいで、地滑り地形上に集落が営まれるようなことはまずありません。地形図を判読し、過去の地滑り範囲を読みとることがこうした遺跡調査の第一歩と感じられた次第です。

ともあれ、いまだ内容不明な地滑り地形上の埋蔵文化財包蔵地、このような包蔵地に対してどんな保護措置を講じていくか、今後、課題となるものと思われます。

（調査参加者）

三浦　春雄、船木　昇、高橋　重喜、石井　あけみ、神成　樹、高橋　美恵子

（整理参加者）

佐藤せい子、国安恵美子、長沢代美子、大河孝子

秋田県文化財調査報告書第337集

**大　松　沢　Ⅰ　遺　跡**

―秋田・昭和線地方道改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―

印刷・発行　平成14年2月

編　　集　秋田県埋蔵文化財センター

〒014-0802 仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地

電話（0187）69-3331 FAX（0187）69-3330

発　　行　秋田県教育委員会

〒010-8580　秋田市山王三丁目1番1号

電話（018）860-3193

印　　刷　株式会社　佐藤印刷